

ず、分娩後3例がS.C.した。一方両者陰性群5例中3例が妊娠中eAg陽性となつたが、eAg価(C.O.I.)は2.4以下であつた。分娩後、この3例中2例が両者陰性に、1例がeAbになつた。他の2例については妊娠中変化はみられず、分娩後1例がeAbにS.C.した。eAb群11例中、妊娠中に1例reverseし2例が(-)となつた。このreverseした例は、分娩後(-)となり、(-)となつた2例はeAbとなつた。肝機能をみると、妊娠中GPTが100以上に上昇した症例は、eAg群中9例にみられいずれも分娩後GPTの上昇がみられた。(-)群、eAb群には、肝機能異常は認められなかつた。

独創点：われわれは、分娩時HBeAg陽性者が、分娩後高率にGPTの上昇を示し、S.C.をおこす例があることを報告してきたが、これらのS.C.例は妊娠前(-)群、eAb群が妊娠中にreverseしただけで、分娩後もとに戻つただけとも考えられる。そこで今回は、妊娠前より追跡し、妊娠中のreverse例もあるが、妊娠分娩により、慢性肝炎に近い状態にあるeAg carrierのS.C.が引き起こされることを明らかにした。

質問 (福岡・浜の町病院) 荒川 公秀

e抗原・抗体ともに陰性例がe抗原陽性になる例があるとすれば、両者陰性のケースに児への感染防禦措置はとつておられますか。

質問 (東京大) 川名 尚

HBe抗体がHBeAgに変つた例はblockはどうするのか。

130. 妊娠がHBウイルスキャリアーに及ぼす影響

(長崎市立市民病院)

田川 博之, 鈴木 公雄

牛丸 敬祥, 楠田 展子

目的：妊娠がHBVキャリアーの肝機能やHB抗原・抗体系に影響を及ぼすかどうかを検討した。

方法：当院で分娩したHBVキャリアー269例を対象とし、妊娠・産褥期にHBs抗原(R-PHA法)、e抗原・抗体CMO法and/orRIA法)を測定し、肝機能をGOT、GPTにてscreeningした。

成績：妊娠・産褥期の肝機能(GOT、GPT)異常例の頻度は、e抗原陽性群143例では妊娠時16.2%、産褥1カ月43.0%、e抗原・抗体陰性群46例では、それぞれ11.6%、25.6%、e抗体陽性群80例では4.1%、22.9%であり、e抗原陽性群に高く、またいずれの群でも産褥1カ月に高頻度であつた。妊娠・産褥期のGOT、GPT変動パターンを4型に分けた。I型は妊娠産褥を通して正常なもの、II型は産褥期に肝炎を発症するも

の、III型は妊娠が進むにつれて正常化し、産褥期にreboundするもの、IV型は産褥期に正常化するものとした。e抗原陽性群ではI型59.3%、II型20.4%、III型14.8%、IV型5.6%であり、e抗原・抗体陰性群では、それぞれ78.6%、7.1%、14.3%、0%、e抗体陽性群では89.5%、10.5%、0%、0%であつた。産褥期に悪化する例は、産褥1~2カ月がピークで、3カ月以後は軽快する例が多かつた。e抗原陽性妊婦の分娩例で次回妊娠まで追跡した28例を検討すると、産褥に正常であつた12例は全例次回妊娠時にも肝機能は正常であり、e抗原も陽性のままであつた。一方産褥期に肝機能が悪化した16例では、次回妊娠時にe抗体へseroconversionした2例とe抗原消失をきたした7例を認め、これらの例では次回妊娠時に肝機能が正常に経過する例が多かつた。

妊娠・産褥期のGOT、GPTの変動や、e抗原のseroconversion、seronegativeなどの現象には妊娠中に増加するcorticoidsが関与していると推察される。

質問 (名古屋市大・内科) 溝上 雅史

① 出産後GPT上昇例で児への感染例はあるか。

② 産褥以後のfollowはどうしているか。

回答 (長崎市立市民病院) 田川 博之

産褥時肝機能悪化例は内科に紹介して追跡しているが、現在のところ劇症肝炎を起した例はない。

131. 新生児・乳幼児のHB vaccineに対する免疫応答能に関する研究

(千葉大)

伊地知幹雄, 稲葉 憲之, 大川 玲子

深沢 一雄, 小堀 恒雄, 高見沢裕吉

目的：HB virus母児間感染によるcarrier化予防のためHBIG-HB vaccineの併用療法が広く用いられているがvaccineによる能動免疫獲得時期は受動免疫によるHBsAbと区別がつかないため厳密に判定するのは困難である。今回我々は児carrier化の恐れのないHBeAg-negative carrier婦人より出生した新生児・乳幼児に対しvaccineを投与し新生児・乳幼児の免疫応答能並びに抗体獲得時期について検討した。

方法：HBeAg-negative carrier婦人より出生しHBsAg/Ab-negativeの新生児6例、乳幼児7例にvaccineを2回投与した。vaccine初回投与(V₁)時期は月齢0~1カ月(0~1M)6例、2M、4M各々1例、12~18M5例である。またHBcAb力価の経時的増減によりHBvirus感染の有無を検索した。

成績：V₁を0.1Mに投与した6例中5例(83.3%)が